

- ・食品企業の国内外の販売力強化を目的に、「飲み頃」を新たなPR方法とし、最適な飲み頃で清酒を提供する、IoTを活用した品質管理技術を開発する。
- ・家具・木工産業のオンライン販売力の強化を目的に、クッションの柔らかさを可視化する。先行研究による木材の質感を可視化する技術と統合し、ECサイトの販売量とWebを介した実店舗への誘導、販売機会の増加を図る。

(3) 県負担・補助率の考え方

県内企業の競争力強化と持続的発展を支援するためにDXを支援する。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	1,025	職員旅費（企業、共同研究機関との打合せ、学会参加）
需用費	5,213	研究開発のための各種消耗品
委託料	300	部材の外注加工、試験委託
使用料	459	研究開発機器の使用料
備品購入費	54,023	研究備品の購入、書籍（規格書）
その他	710	学会参加負担金等
合計	61,730	

決定額の考え方

「途中経過」または「予算案の決定（知事査定後）」の公開の際に記載します。

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

岐阜県DX推進計画の研究開発（工業系試験研究機関）支援プロジェクト及び製造業プロジェクトに位置付けられる。

(2) 国・他県の状況

経済産業省ではDX推進ガイドライン及びDX推進指標を定めている。

(3) 後年度の財政負担

技術移転時のフォローアップに係る費用。

(4) 事業主体及びその妥当性

岐阜県（工業系試験研究機関）が企業や業界と連携・共同して技術開発を行い、成果を技術移転することで、県内製造業のDX推進を支援する。

事業評価調書（県単独補助金除く）

■ 新規要求事業

□ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

産業動向及び生活様式の変化に対応し、県内企業が収益力や競争力を強化するため、企業・業界のニーズを把握し、デジタル化のステージに合わせて開発した技術を移転することにより、県内企業・業界が自らDXを推進できるよう支援する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R4)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R6)	達成率
						%
① 技術移転の推進	0件	/	/	/	5件	%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	・取組内容と成果を記載してください。
令和 3 年度	<p style="color: red;">令和5年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%</p>
令和 4 年度	<p style="color: red;">令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 3	<p>岐阜県DX推進計画の研究開発（工業系試験研究機関）支援プロジェクト及び製造業プロジェクトに位置付けられ、県内企業では、立ち遅れているDXを支援するプロジェクトとして、企業の期待も強く、必要性は高い。</p>
<p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価)	
<p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価)	

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 地域企業の競争力強化に関するニーズに基づいて、柔軟に対応していく必要がある。</p>

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 業種別懇談会等で得られる企業ニーズに基づき、研究課題の方向性を微修正し、技術開発や新商品開発の強力な支援を進める。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせる理由や期待する効果 など</p>	